

最年少プロ棋士、藤井聡太四段が6月26日、竜王戦決勝トーナメントの対局で増田康宏四段に勝ち、公式戦最多記録となる29連勝を達成した。デビューから僅か半年、14歳の中学生が30年間破られなかった将棋界の記録を塗り替えた衝撃は計り知れず、前人未到の快挙に日本列島が沸きかえり、各地の将棋教室には初心者向けクラス入会の問い合わせが相次いでいる。

彼の強さの秘密はズバリ「隙のなさ」にある。それも終盤だけではなく先が見通しにくい序盤戦や中盤戦においてもそうであると多くの棋士は指摘する。また、小学6年からプロも出る詰め将棋の選手権で3連覇してきた実績が示すように、彼は将棋の基本である詰め将棋を繰り返して来たが、その背景には近頃話題の人工知能（AI）の活用もある。彼は「先手と後手どちらが有利かを示す評価値が局面ごとに示されるのが革新的でした」と振り返り、自分の対局をソフトに検討させ、形勢判断に活用し自分の点数を大幅に下げる手を指していることに気づくこともあったという。

いっぽうで、7月2日に藤井四段に勝ち彼の連勝をストップさせた佐々木勇氣五段は、トーナメント表ができて以来“藤井対策”を研究し、藤井四段が29連勝した6月26日の対局にも足を運び、100人の報道陣がひしめき合う物々しい雰囲気の中、鋭い眼光で藤井四段を見つめていた姿が話題となった。イエスは言う。

「だから、目を覚ましていなさい。」 マルコの福音書13章35節。

神を信じた者は、常にイエスの導きや聖書を通じて己の評価を確認し、点数が下がった時は悔い改め、日々実践を重ね隙のない道を歩んで行く。物々しい試練からも目をそらさず、むしろそれに飛び込み、イエスに鋭く焦点を合わせ乗り越える。ありがたいことに我々は藤井四段のような天才になる必要はない。イエスの聖霊の力によって誰でも出来る。

2017-7-21

